
葬式用の優しさ

めいそ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

葬式用の優しさ

【Nコード】

N7590I

【作者名】

めいそ

【あらすじ】

死んだ人には優しいよなって話

あるところに一人のひきこもりがいました。

彼は自分の存在が家族にとって負担であると、自分は不要な人間であると、いつもいつも悩んでおりました。

ある時はそれを思いなおし、ある時は絶望し、まるで天秤の左右の腕のように行ったり来たりを繰り返しておりましたが、遂に自分の重さに耐えられなくなり、彼は自殺を遂げました。

彼が気づくとそこは何もない世界でした。

真っ暗で何もない世界。あるのは自分だけ。だけれどそれが不思議と嫌ではないのでした。

時間など流れていてもわからない。でも退屈はない。寂しさもない。でもほんの少し家族への気持ちだけが残っていました。

しかしそれも直に消えていくだろう。なぜだかそれがわかったのです。

なごり雪程のその思いから彼は前の世界を覗いてみることにしました。それはテレビのリモコンのスイッチを押す程度の事でした。

「ああ、なんで一言相談してくれなかったの！」

葬式の席で前の世界の母がおいおい泣いている姿が映りました。

「ただ生きててくれるだけでよかったのに。お前というやつは…」

前の世界の彼の遺体に向かって前の世界の父が涙を流しながら語りかけています。

「ごめんね、私が優しくしてあげていれば……」

前の世界の姉がひたすら謝っています。

前の世界の親族も前の世界の昔の友人もみんながすすり泣き、「
いいやつだった」と口を揃えていつております。

彼はなんだが死んでしまったことが悲しくなりました。自分はこ
んなに必要とされていたのか……。こんなに悲しんでもらえる存在
だったのか……。

彼は決めました。前の世界に戻ろう。

気づくと彼は自室のベットのの上に寝ていました。

少し頭が重いものの、帰ってこられた嬉しさでありそのことを
感じません。

どんな顔して会おう。しばらく悩んだものの結局はいつもどおり
会ってみることにしました。

リビングへ行くと両親と姉夫妻と姪が食卓を囲んでいます。

みんなは驚いた顔をして彼を見ました。

数秒の間、父が「まあ座りなさい」と椅子を引きました。

彼は椅子に座りましたが黙っていました。何を言えいいかわか
らないからです。

その後十分ほど彼をおいてけぼりにして何事もなかったかよう
にみんなが雑談をしていました。

聞いていないふりをしながら人一倍話に耳を傾けていると、
……どうやら自分は自殺をする前に戻ったようだ。みんなが自分
を見て驚いたのも自分がめったに部屋から出てこないからだ。彼は
そう気づきました。

食事を済ませると姉夫妻と姪はそそくさと帰っていきました。

優しくしてくれるって言ったのに……。彼は残念そうに姉の後姿を見送りました。

それから少しの間、手持無沙汰でコップに注がれたお茶をゆつくりとすすっていると、

「なあ、お前いまのままでいいのか？」

父が口を開きました。

「え、でも生きてるだけでいいって……」

彼は蚊の鳴くような声で答えました。すると、

「何を言っているんだ！ そんな甘い事を言って、お前は親が死んだらどうするつもりなんだ。お前はまだ若いんだからやり直せる！」

父は声を荒げます。「姉夫妻に頼るつもりでもそうはいかんぞ。あいつはお前の面倒などみないと言っていた。お前はやればできるんだ。やれることからやってみろ！」

父の喉から発せられる音の振動を聞きながら、彼は頭が真っ白になるのを感じました。

次の日、母親が一人のところを見計らって話しかけます。

「おれ死にたいんだけど……」

「何冗談言ってるの。親より先に死ぬなんて親不幸ものすることよ！」

母は血相を変えて言いました。瞳に涙すら浮かべています。

彼は自室に戻り、布団にもぐりこみました。

自殺した日以上の絶望が彼を襲います。

どうしてだ。どうして生きている自分には優しくしてくれないんだ！

あれは夢だったのか！ いや、そんなはずはない。だったらあの世界へ戻りたい。戻れ、もどれっ！

だけれど彼の前にあるのは布団の中の暗闇とカビ臭いにおいだけ

です。安らぎなどどこを探しても見つかるはずもありません。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7590i/>

葬式用の優しさ

2010年11月22日21時53分発行